

# 御 射 山 遺 跡 御 射 山 中 遺 跡

町内遺跡 埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 2 0

長野県富士見町教育委員会

# 例 言

- 1 本書は平成 12 年に富士見町教育委員会が行った御射山遺跡および御射山中遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本書に係る発掘調査は以下の日程で行った。  
御射山遺跡：平成 12（2000）年 11 月 18 日～12 月 13 日  
御射山中遺跡：平成 12（2000）年 11 月 15 日～12 月 13 日
- 3 発掘調査はいずれも樋口誠司と小松隆史が担当した。本書の執筆および編集は副島蔵人が、整理作業及び製図は樋口誠司、副島蔵人、小林美知子、鶴田敏子が行った。
- 4 本報告に係る出土品、諸記録は井戸尻考古館に保管されている。
- 6 調査担当者および発掘作業員は以下の通り。

## 御射山遺跡

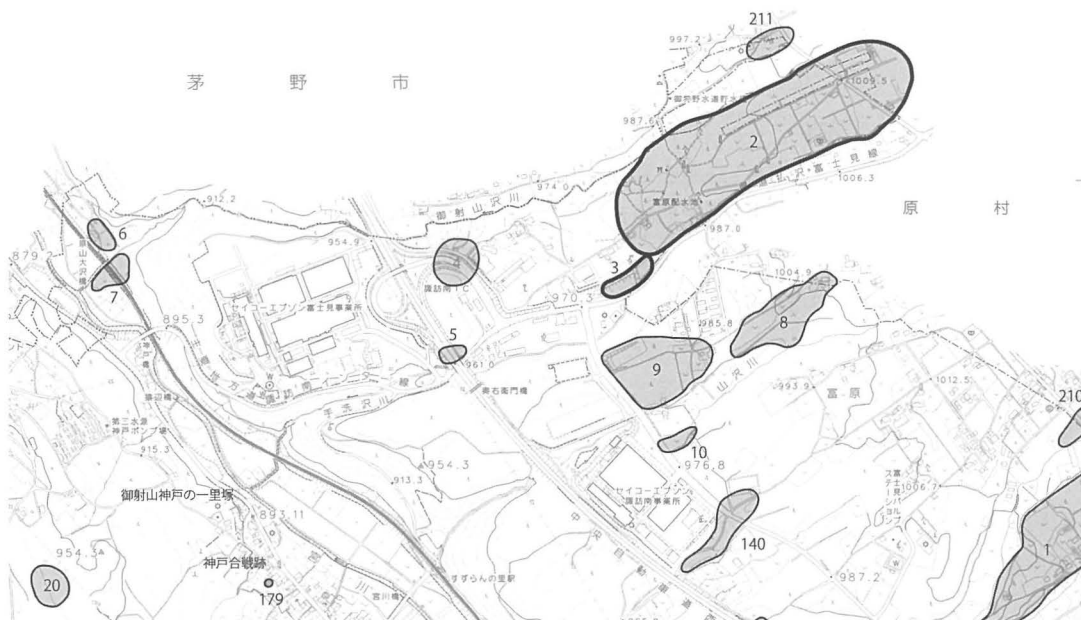
調査担当者 樋口誠司 小松隆史

発掘作業員 小口明子 小池敦子 小平辰夫 小林ノリ子 小林道子 小林やす子 平出虎一  
平出みね子 武藤きのこ

## 御射山中遺跡

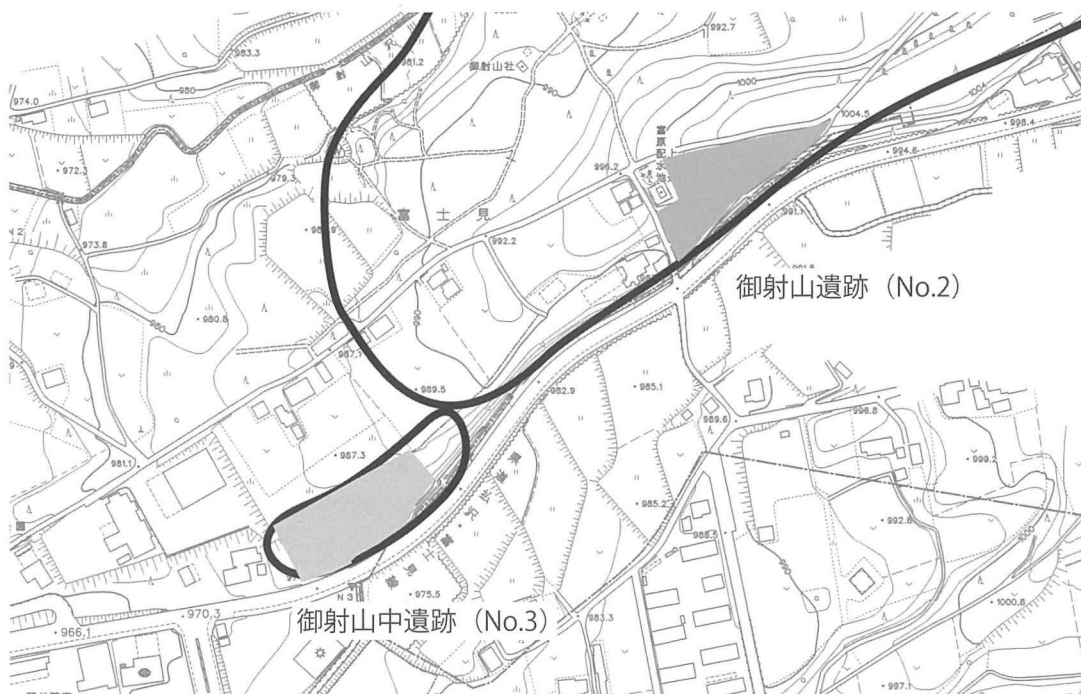
調査担当者 樋口誠司 小松隆史

発掘作業員 小口明子 小池敦子 小平辰夫 小林ノリ子 小林道子 小林やす子 平出虎一  
平出みね子 武藤きのこ



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡 (1:20000)

2:御射山遺跡 3:御射山中遺跡 1:徳久利遺跡 4:御射山西遺跡(埋滅) 5:手洗沢遺跡 6:大石遺跡 7:川音遺跡  
8:山沢上遺跡 9:山沢下遺跡 10:大久保遺跡 140:万年清水遺跡 169:神戸御射宮司跡 210:南原西遺跡



第2図 遺跡の位置と調査地点 (1:5000)

# I 御射山遺跡

## 1 遺跡の立地と環境

富士見町が位置する八ヶ岳西南麓の裾野は、その伏流水が湧き出て川となり、それらがなだらかな傾斜地を開析し、台地や尾根を形成して宮川へと流れ込んでいる。これらの尾根にはいくつかの遺跡が遺されており、そのうちの2つが御射山遺跡と御射山中遺跡である。いずれの遺跡も宮川の支流である御射山沢川と手洗沢川によって開析された幅 300m ほどの台地、標高約 980 ～ 1000m に位置する。

御射山遺跡および御射山中遺跡は富士見町における周知の埋蔵文化財包蔵地 No.2「御射山遺跡」(平安時代および中世・近世の包蔵地)、No.3「御射山中遺跡」(縄文時代前期の集落址)として登録されており南に山沢上遺跡(No.8: 縄文時代中・晩期、平安時代の集落址)や山沢下遺跡(No.9: 縄文時代中期と平安時代の集落址)といった遺跡が点在する(図 1)。

現在は富士見町と原村および茅野市との境、中央自動車道諏訪南 IC から北東に 400 ～ 700 m ほどの距離で、富士見町富原区に所在する。

## 2 調査の経緯

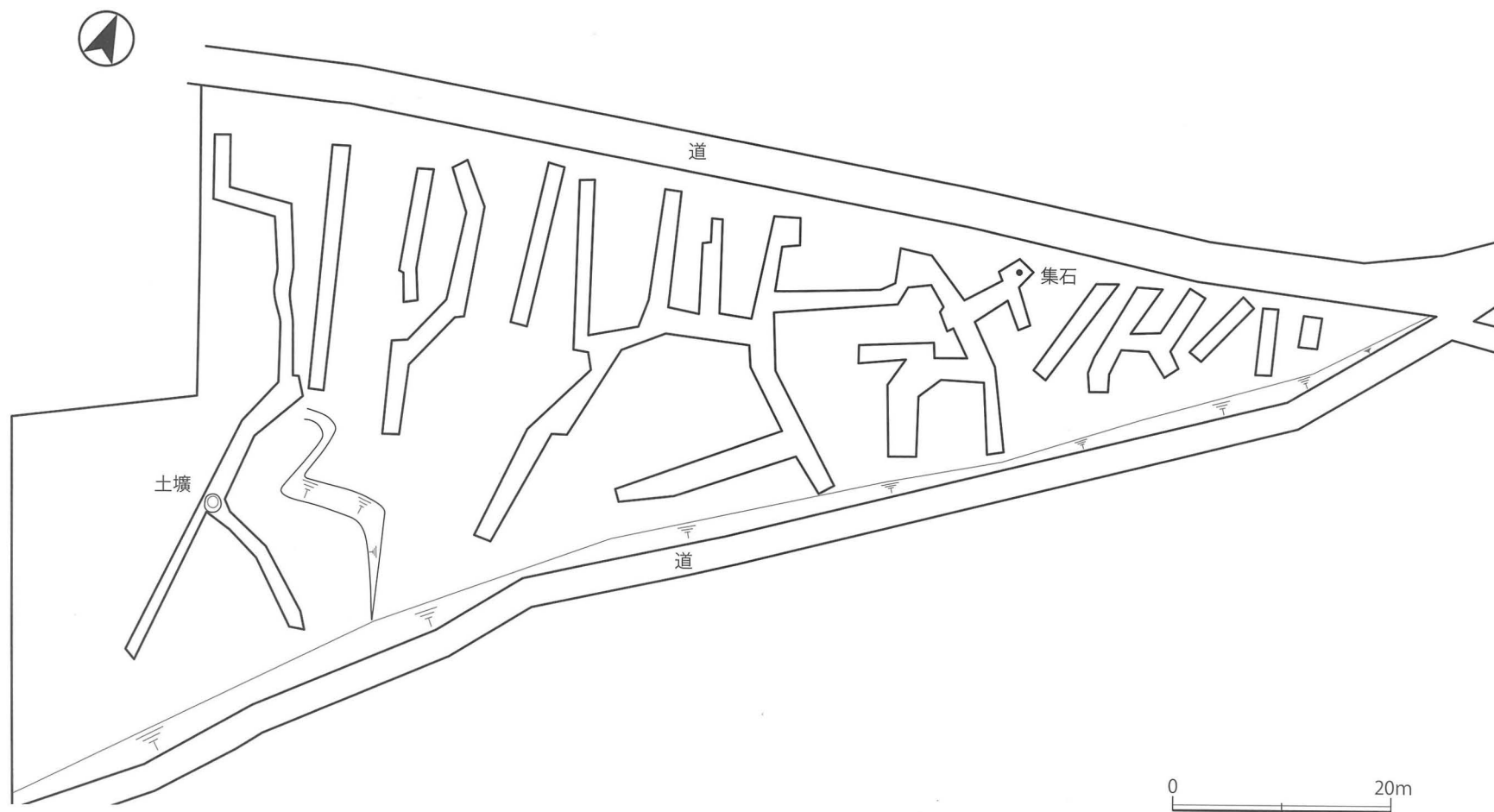
平成 12 年 10 月に富士見町富士見 248-20・248-402・248-403 番地内で駐車場と住宅兼店舗建設に際して事業者より埋蔵文化財該当の有無について問い合わせがあった。この事業地が御射山遺跡に該当することから事業者と保護協議を行ったが、計画変更が難しいとの事から記録保存を目的とした発掘調査やむなしと判断され、これを受けて 11 月 15 日から発掘調査を行った。

## 3 調査の概要

事業者との協議の結果、まずはトレンチを入れて地中の状況を把握することになった。調査の状況で遺構等が検出された場合はトレンチの範囲を広げて全面調査することとした。また、事業者のなるべく立木を残して開発したいとの希望から、立木の間を縫うようにトレンチを入れて遺跡の有無並びに遺構確認を行った(第 2・3 図)。

事前の打ち合わせで、できるだけ尾根に直行するようにトレンチを入れるように考えていたが、いざ現場では必ずしもうまく行かなかった。

開発対象面積 3938㎡に対しておよそ 4 分の 1 の 864㎡、16 本のトレンチを南北に入れた。調査の結果、土壙 1 基、集石 1 基を検出したが、ほかの遺構が存在する可能性が極めて低いことから全面発掘は行わず、検出した遺構について調査して発掘調査を終了した。立木部分については慎重に工事を行い、何らかの遺構が検出された場合は協議して追加調査を行うことで事業者と合意した。



第3図 御射山遺跡 調査区全体図 (1:600)

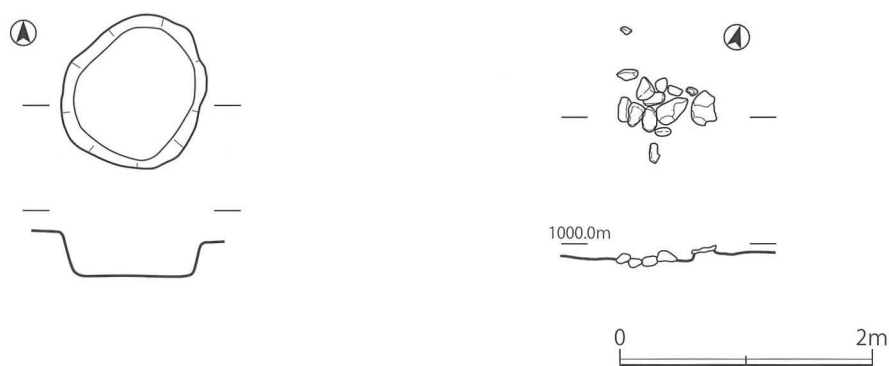
#### 4 遺構と遺物

尾根の斜面で土壙を1基、北側の道路寄りで集石1基を検出した。出土した遺物は極めて少なく、明確な時期決定はできないが、縄文時代前期から中期初頭にかけての遺構と思われる。また、最上部の黒色土層中より御射山社の祭りにかかわるかわらけの小片が3点出土した。1点は糸切痕がうっすら見えるものだが、いずれも図示できる大きさではない。

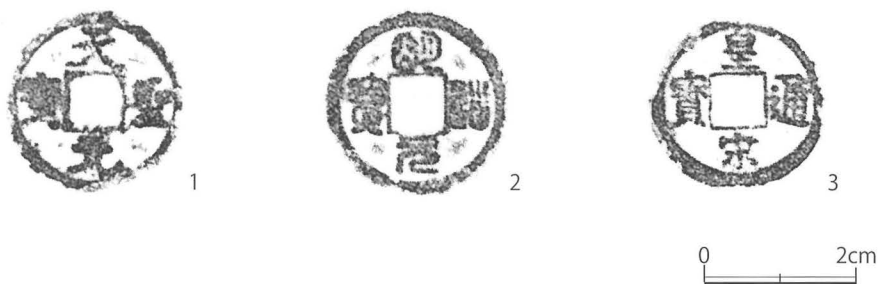
**土壙** 斜面地の中腹から検出された長径 1.1 m、短径 70cm の盥形を呈する遺構である（第4図）。底面はハードロームで平らであり、立ち上がりはしっかりとしている。形状から墓穴と考えられる。遺構上面から無文の縄文土器小片が出土しているが、帰属時期は不明である。

**集石** 10～30cm 程度の礫が十数個集中して見つかった（第4図）。集石下部には明瞭な掘り込みは持たず、礫と地山の間に間層はなく、少量の炭が散っているのみである。礫はいずれも安山岩で真っ赤に被熱しており、そのうち2個はヒビ割れていた。出土遺物には黒曜石の小片があったものの、図示できなかった。

**採集の古銭** 広大な遺跡からは祭事に使われた銭貨が採集される。調査区付近の畑からは古銭が3点見つかった（第5図）。いずれも宋銭で、1は天聖元宝、2は明道元宝、3は皇宋通宝である。



第4図 土壙・集石（1：60）



第5図 採集の古銭（1/1）

1；天聖元宝、2；明道元宝、3；皇宋通宝

## 5 まとめ

遺構については明確な時期を特定できないものの、後述する御射山中遺跡の在り方を考えると同時期（前期末葉）の可能性はある。

かわらけ片はいずれも重機掘削した黒色土の残土から発見されたが、黒色土中での遺構確認はできなかった。中世、この土地一帯は神野<sup>こうや</sup>と呼ばれる諏訪神社上社の社領で、本調査地点の北西約 100 m に鎮座する御射山社（通称「原山様」<sup>はらやまさま</sup>）では御射山御狩の祭事が行われていた。過去に、近隣の畑から宋銭も採集されており、これらを用いた祭事の内容や、12 世紀後半以降の御射山社祭事に関わる遺跡としての評価は今後の調査に委ねられる。



写真1 土坑（北より）

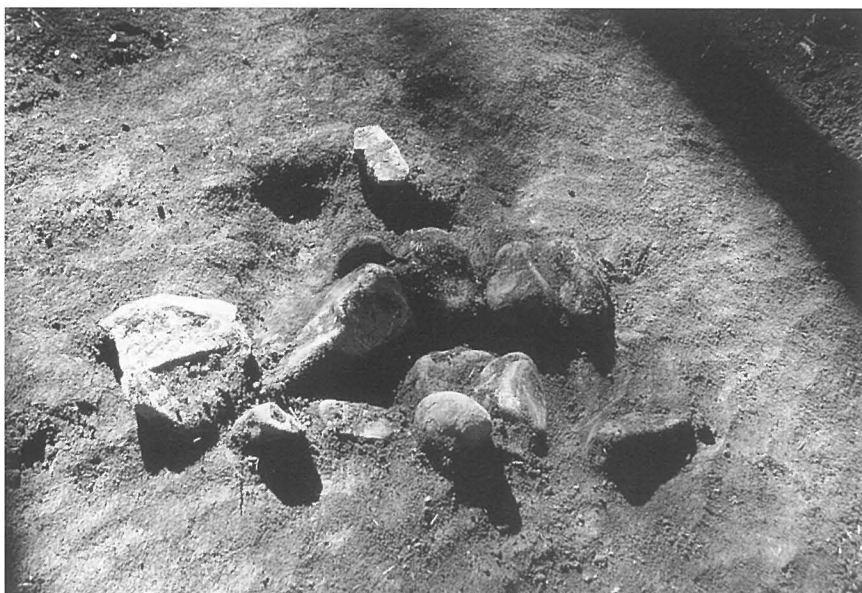


写真2 集石（北より）

## Ⅱ 御射山中遺跡

### 1 調査の経緯

平成 12 年 10 月に富士見町富士見 11989-1・11989-4・249-12 番地内で駐車場整備に際して事業者より埋蔵文化財該当の有無について問い合わせがあった。この事業地が御射山中遺跡に該当することから事業者と保護協議を行ったが、計画変更が難しいとの事から記録保存を目的とした発掘調査やむなしと判断され、これを受けて 11 月 18 日から発掘調査を行った。

### 2 調査の概要

事業者との協議の結果、まずはトレンチを入れて地中の状況を把握することになった。調査の状況で遺構等が検出された場合はトレンチの範囲を広げて全面調査することとした。

開発対象面積 4420㎡に対しておよそ 3 分の 1、1084㎡のトレンチを入れた。調査の結果、住居址 3 軒、小竪穴 2 基を検出した。この点について事業者と協議し、周辺にほかの遺構がないことから、住居址が集中する地点を広げて遺構の状況を把握することとした。

トレンチを拡張した結果、遺構の密度が低いことが判り、検出された縄文時代前期末葉の住居址 3 軒、小竪穴 2 基、陥し穴 1 基の調査を行った（第 6 図）。この他に遺構が検出される可能性は低かったため、全面発掘は行わず、立木部分については伐採後試掘溝を開けて遺構検出することで事業者と合意した。

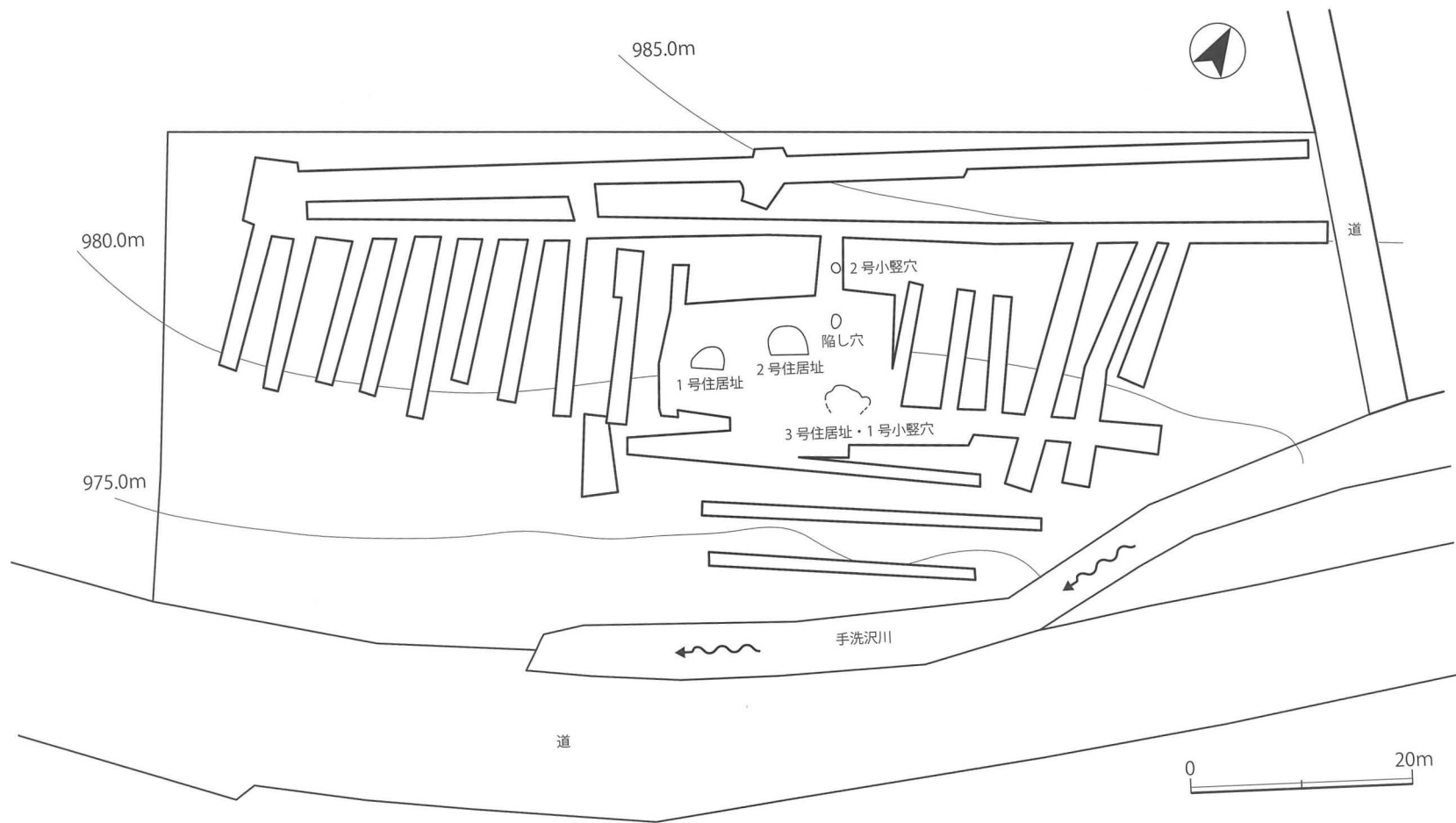
### 3 遺構と遺物

**1号住居址** 斜面地に築かれた東西約 3.5 m の竪穴住居址で、南端は崩落し残っていない（第 7 図）。床面は比較的堅い。北壁付近はローム層下の Pm-I（御岳火山第 I 軽石層、通称ミソ土）およびその下層である古期ロームまで掘り込んでいる。住居址南端で焼土がみられ、6～7cm ほどハードロームが焼けて硬化していることから地床炉と考えられる。

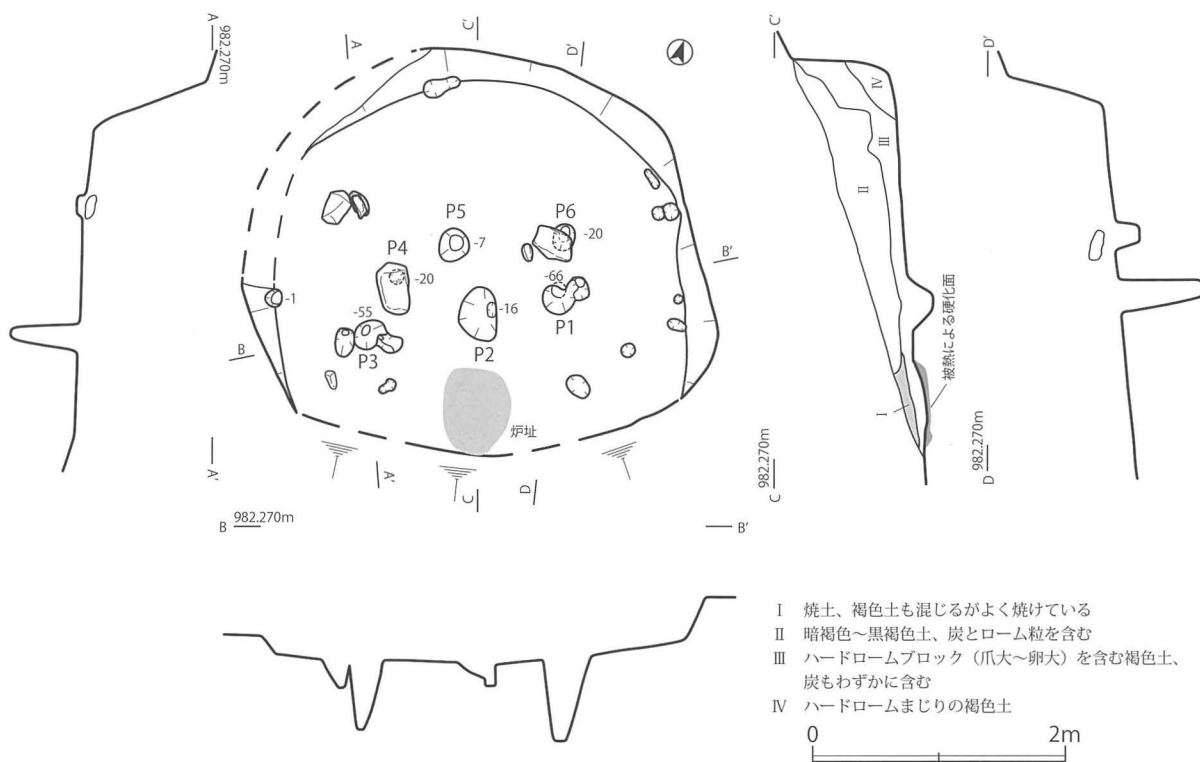
P1 は床面より 66cm、P3 は床面より 55cm の深さがあり、いずれも底部から炭が出ているため、主柱穴と考えられる。P4 および P6 は細く 20cm と他と比べて浅い。P2 は覆土上面が黒色土で炭が多かったが浅い漏斗状の穴であった。

出土した遺物はわずかで、土器片 2 点と黒曜石剥片 6 点である。黒曜石の剥片はいずれも炉の焼土内より出土している（第 8 図）。土器はいずれも細い半裁竹管文が施されている。1 は深鉢の破片で 3mm 幅の半裁竹管文が縦に充填されている。胎土には砂粒を多く含み、1mm 程度の長石もやや多くみられる。焼成は良いが、内面の器膚は使用により荒れている。破片の上下に輪積み痕が残る。2 も深鉢の破片で、1 とは別個体である。2mm 幅の半裁竹管文が斜行し、三角形の区画は半裁竹管の腹側による細かい押引きで縁取られている。区画内は深く掘り込まれている。胎土には細砂粒を含み、焼成はしっかりとしている。いずれも籠畑式に比定される。





第6図 御射山中遺跡 調査区全体図 (1:600)



第7図 1号住居址 (1:60)

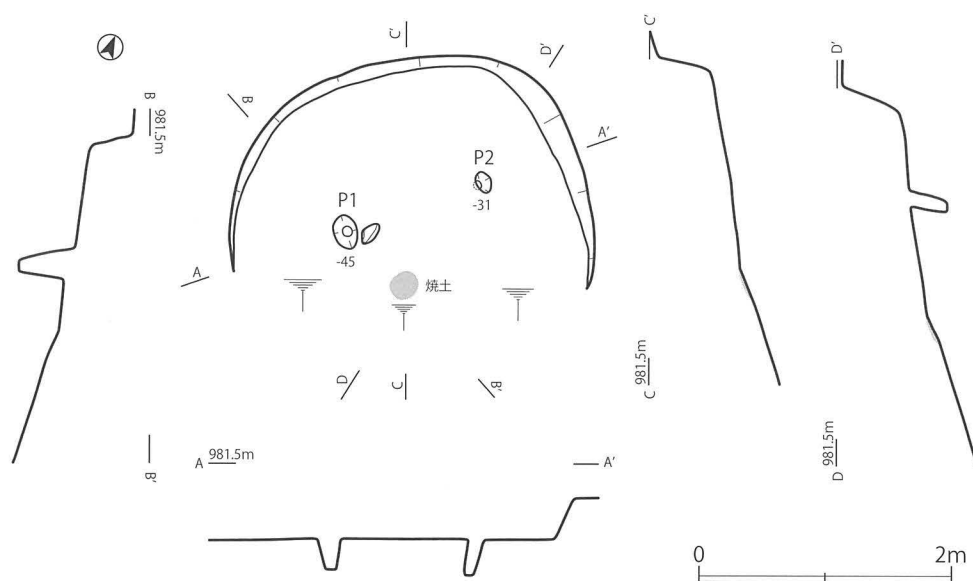


第8図 1号住居址出土遺物 (1/3)

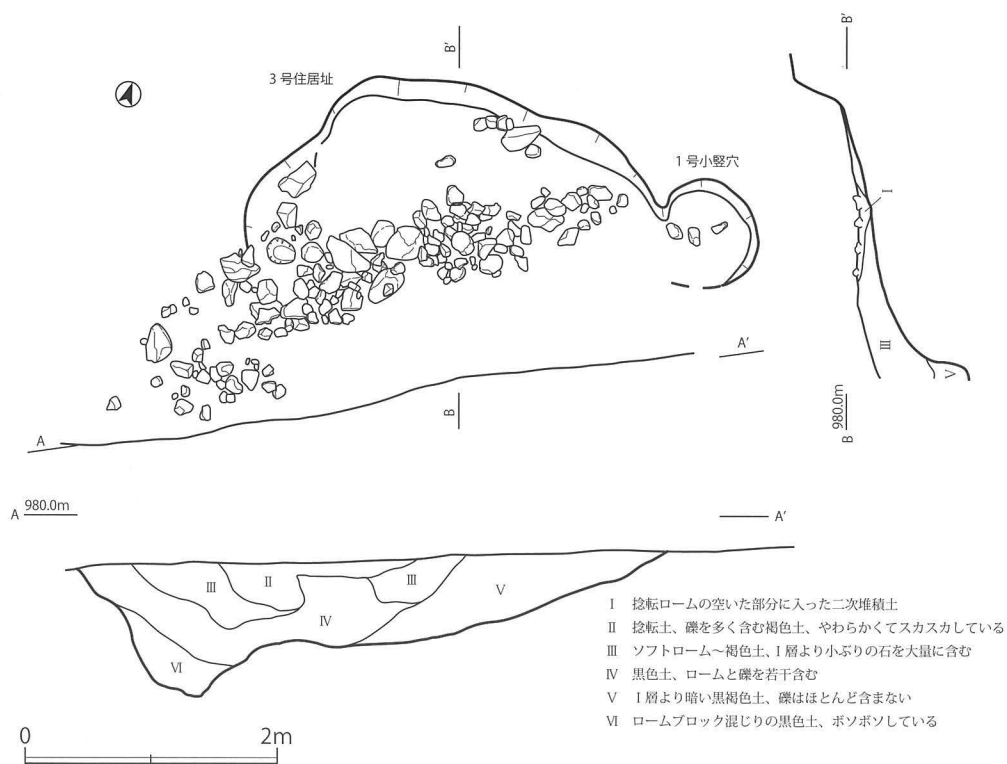
**2号住居址** 斜面地に築かれた東西約2.9mの竪穴住居址で、南端は残っていない(第9図)。北壁および床面で通称ミソ土が露出している。住居址南端で焼土がみられる。床面近くから炭がまとまって検出されたほか、床面直上に5～6cm厚の炭の影響とみられる漆黒土層が確認されたため、焼失家屋と考えられる。

P1は床面より45cm、P2は床面より31cmとやや浅いものの、ほかに目立った柱穴がないため主柱穴と考えられる。

出土遺物は磨石1点のみである。住居址の立地と形状を考えると、1号住居址同様に縄文時代前期末葉と考えられる。



第9図 2号住居址 (1:60)

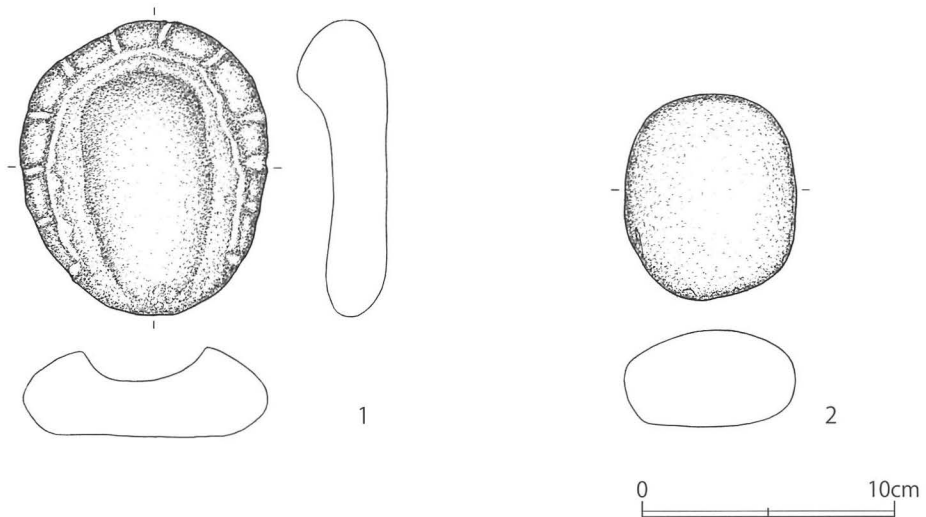


第10図 3号住居址・1号小竪穴 (1:60)

**3号住居址** 斜面地に築かれた東西約 3.4 m の竪穴住居址。床は北側の一部を残すのみである（第 10 図）。床面は安定しておらず、礫混じりのロームである。壁面も地山の礫が露出している。住居址中央から南側にかけては、ローム捻転址（ロームマウンド、倒木痕）が切り合っており、拳大～人頭大の大きさの自然礫が帯状に入り込んでいる。

出土遺物は石器 2 点である（第 11 図）。1 は輝石安山岩製のやや小ぶりの磨りうす。縁に刻文が放射状に施されている。2 は輝石安山岩製の磨り石。全体的に風化しており、ざらついているが、片面には磨られてなめらかな部分が残る。側面は全周に敲打痕がみられる。風合いが 1 と似ており、1 の磨りうすへの収まりも良いことからセット関係にあると考えられる。

土器は出土していないが 1 の磨りうすの形状や、住居址の立地などから 1 および 2 号住居址同様、縄文時代前期末葉の住居址と考えられる。

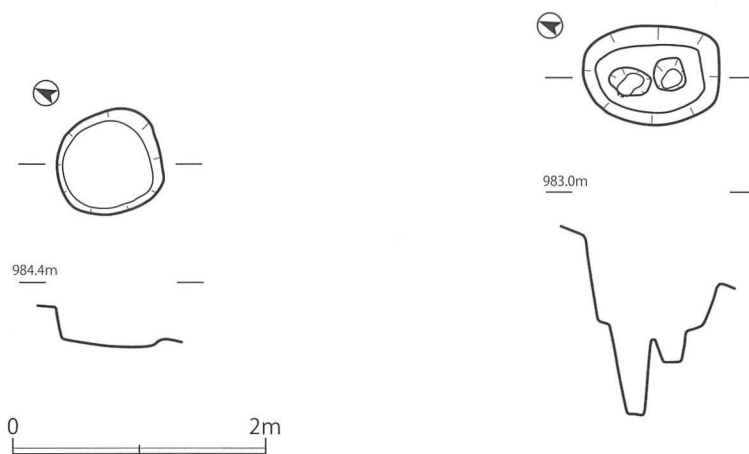


第 11 図 3 号住居址出土の遺物（1/3）  
1・2；輝石安山岩

**1号小竪穴** 3号住居址の東に隣接する長径約 90cm の穴（第 10 図）。南側は崩れている。3号住居址同様、壁面に地山礫が露出し、底面にも拳大の地山礫がみられる。

**2号小竪穴** 直径約 90cm、浅い盥形を呈する（第 11 図）。底面は強く締まっており、斜面側の立ち上がりはきつい。遺物は出土しておらず、帰属時期は不明である。

**陥し穴** 長径約 1.1 m、短径約 80cm の楕円形を呈する（第 11 図）。杭穴が 2 個あり、北側の穴が深い。いずれも坑底はほぼ平らであった。遺物は出土しておらず、帰属時期は不明である。

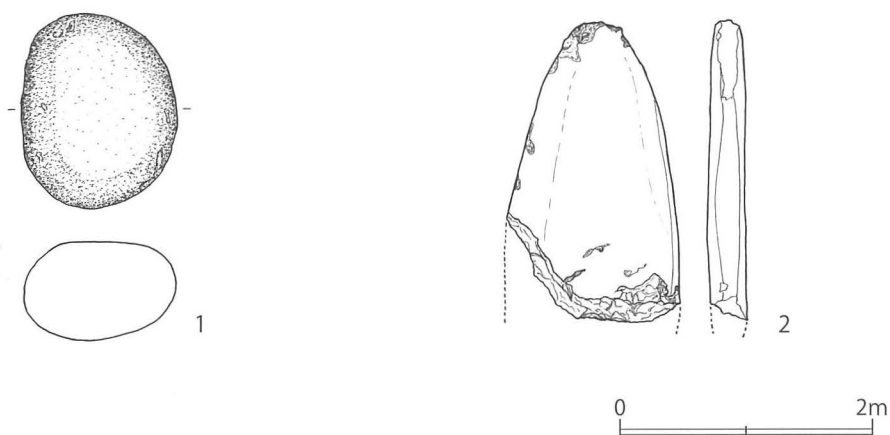


第12図 2号小竪穴・陥し穴 (1:60)

### 遺構外出土の遺物

遺構内外を問わず、本遺跡から発見された遺物は非常に少ない (第12図)。

1は1号住居址南側斜面から発見された磨り石。輝石安山岩製で、片手になじむような大きさと形状である。全体的に風化し、ざらついている。側面全体に敲打痕がみられる。2は1号住居址の南側約50mの斜面地から発見された定角式磨製石斧。刃部を欠損している。曹長岩製で比重が高くて重い。やや緑がかった乳白色でよく磨かれており、しっとりとした美しい光沢を放つ。



第13図 遺構外出土の遺物 (1/3)

1; 輝石安山岩 2; 曹長岩

## まとめ

町内の縄文時代前期末葉の代表的な集落には、籠畑遺跡や机原三本松遺跡などが挙げられる。こうした前期末葉の集落は、台地や尾根の平坦面をわざと避けて南向きの急斜面に住居を掘り込という特徴（いわゆる斜面集落）があり、本遺跡における集落の在り方もその典型と言える。斜面地に竪穴住居を作るため、下側の輪郭がとらえづらく平面形がかまぼこ形を呈するのも特徴の一つである。

このような住居址の在り方は、当町の机原遺跡をはじめとする諸磯期に始まり、前期末葉まで見られる特徴である。周辺部を含め、御射山中遺跡の全容は今後の調査および研究成果に期待したい。

## 参考文献

- ・富士見町教育委員会 1985 『御射山遺跡発掘調査報告書 - 県道弘沢富士見線改良事業に伴う緊急発掘調査 - 』
- ・富士見町教育委員会 1991 『富士見町史』 上巻
- ・富士見町教育委員会 1999 『富士見町の指定文化財』
- ・富士見町教育委員会 2005 『坪平遺跡・森平遺跡・御射山遺跡』

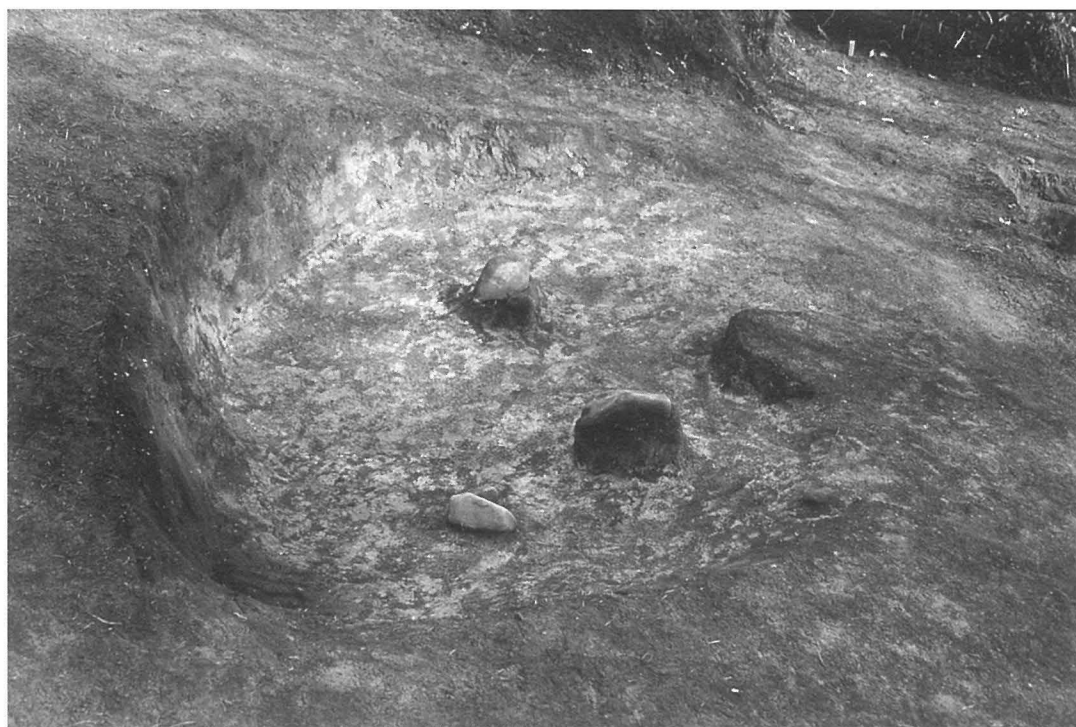


写真3 1号住居址（西より）

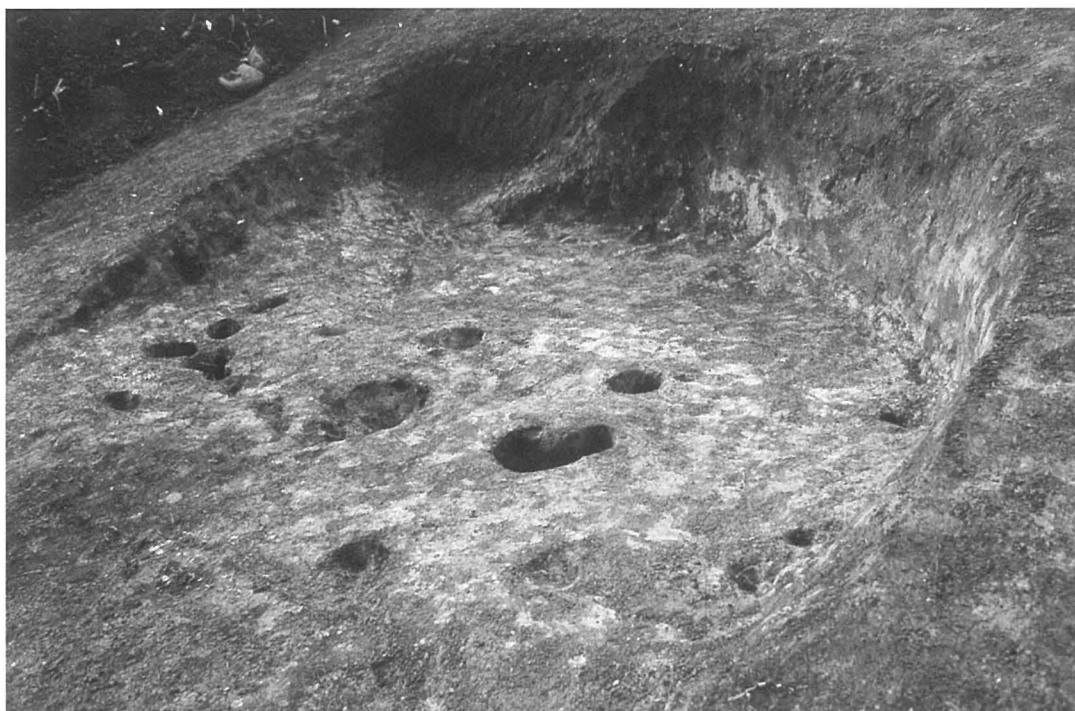


写真4 2号住居址（東より）



写真5 3号住居址（南より）



写真6 3号住居址 遺物出土状況（東より）



写真7 1号小竪穴（東より）





写真8 2号小竪穴（西より）



写真9 陥し穴（東より）



写真 10 調査区遺構全景（南東より）



写真 11 発掘調査の様子

ふりがな	みさやまいせき・みさやまなかいせき							
書名	御射山遺跡・御射山中遺跡							
副書名	町内遺跡 埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	副島蔵人							
編集機関	富士見町教育委員会							
所在地	〒399-0214 長野県諏訪郡富士見町落合 10777 TEL 0266-62-2250							
発行年月日	2020年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	度分秒	度分秒		m <sup>2</sup>	
御射山	ながのけん 長野県 すわぐん 諏訪郡 ふじみまち 富士見町 ふじみ 富士見	20362	2	35度 56分 21秒	138度 13分 11秒	2000.11.18 ～ 12.13	864 m <sup>2</sup>	個人住宅兼店舗
御射山中			3	35度 56分 14秒	138度 13分 3秒	2000.11.15 ～12.13	1084 m <sup>2</sup>	駐車場整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
御射山	包蔵地	平安	土壌、集石		土器・石器			
御射山中	集落址	縄文	住居址、小竪穴、陥し穴		土器・石器			
要約								
町内の過去の発掘調査をまとめて報告する。								
御射山遺跡では縄文時代前期末葉の頃と考えられる土壌と集石各1基を検出した。また、上部の黒色土層からは御射山社の祭りに関わるかわらけが数点出土している。								
御射山中遺跡では縄文時代前期末葉の住居址3軒、小竪穴2基、陥し穴1基を検出した。籠畑式の土器片と石器が出土しており、住居址の立地等を考慮すると縄文時代前期末葉の集落址と判断される。								

---

御射山遺跡・御射山中遺跡  
町内遺跡 埋蔵文化財発掘調査報告書

2020年3月31日

発行 長野県富士見町教育委員会  
印刷 ヤジマプリント

---